

第 10 回 YGN 若手勉強会
「放射線問題と国連 ～2つの『国連』報告を読み解く～」

来る 1 月 10 日、日本原子力学会・若手連絡会 (YGN) は、「放射線問題と国連～2つの『国連』報告を読み解く～」と題する勉強会を開催致します。

2018 年 10 月、国連人権理事会によって任命された特別報告者による、福島第一原子力発電所事故により避難した子どもや女性の帰還に関する発言が国内外で様々に報じられました。放射線問題に関係する国連機関としては、原子放射線の影響に関する国連科学委員会 (UNSCEAR) が良く知られており、2013 年に福島事故後の放射線影響に関する報告書を公表し、その後もレビューを継続していますが、国連人権理事会の特別報告者という仕組みは必ずしも馴染みのあるものではなく、その内容も相俟って、様々な反響がありました。

事故後の放射線影響の問題は復興の文脈でも重要ですが、一連の出来事を理解するには、放射線に関する科学的な知識のみならず、国連システムに関する理解も求められます。そこでこの度は、2つの国連機関の取組みに精通する専門家・実務家をお招きし、異なる報告・評価が生じている背景を深掘りし、今後の対応や見通しについて議論します。

- 記 -

- 【日時】 2019 年 1 月 10 日 (木) 15:00-18:00
- 【場所】 東京工業大学(田町キャンパス)キャンパスイノベーションセンター多目的室 2
(アクセス：<http://www.cictokyo.jp/access.html>)
- 【講師】 ①田村優輝氏 (外務省 総合外交政策局 人権人道課 首席事務官)
②谷幸太郎氏 (量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 研究員)
③調整中
- 【プログラム】 15:00 – 15:10 開会挨拶・趣旨説明
15:10 – 15:40 講演①「国連人権理事会と放射線問題」
15:40 – 16:10 講演②「2013 年 UNSCEAR 報告書とフォローアップ活動」
16:10 – 16:40 講演③「2つの『国連』報告を社会はどう受け止めたのか(仮)」
16:40 – 17:00 休憩
17:00 – 17:50 パネル討論・総合質疑
(司会) 堀尾健太氏 (YGN/電力中央研究所)
17:50 – 18:00 閉会挨拶
- 【対象】 原則として、原子力・放射線分野に従事する 39 歳以下の若手・学生が対象です。
- 【定員】 40 名程度 (応募多数の場合は、先着順とさせていただきます。)
- 【参加費】 無料
(会終了後、講師を囲んだ懇親会 (実費 5000 円程度) を予定しています。)

【申込/問合せ】 本勉強会への参加を希望される方は、1月8日（火）17時までに、題名を「第10回 YGN 若手勉強会参加申込み」とし、本文に(1)お名前、(2)ご所属、(3)メールアドレス、(4)原子力学会会員区分（正会員/学生会員/非会員）、(5)懇親会の出欠を記載の上、以下の宛先までお申し込みください。

申込/問合せメールアドレス：ygr10@aesj-ygn.org

【備考】 YGN 若手勉強会では「チャタム・ハウス・ルール」を適用し、参加者相互の信頼関係に基づく率直な議論を行います。本趣旨にご賛同の上、ご参加ください。
※チャタム・ハウス・ルール：「会議で得た情報を参加者は自由に使用してもよいが、発言者及びその他の参加者の身元・所属団体は明かしてはならない」というルール。国際会議等の場で率直な議論を促すために多く用いられている。

<YGN 若手勉強会>

若手の日常業務に捉われない自己研鑽や専門分野や所属を超えた繋がりの機会創出のため、2016年10月より継続的に開催しています。

第1回「もんじゅを見つめ直す」（2016年10月）

第2回「次世代炉開発に向けて考慮すべきことは何か？」（2017年2月）

第3回「原子力の将来とイノベーション」（2017年4月）

第4回「次世代小型モジュラー炉:シンプルで安全、そして経済的な選択肢」（2017年10月）

第5回「安全神話とは何か。私たちは本当に安全神話に囚われていたのか。」（2017年11月）

第6回「原子力安全と自治体行政：福井県の経験から」（2018年2月）

第7回「原子力プラント建設の技術継承」（2018年5月）

第8回「著者と語る『日本の原子力外交－資源小国 70年の苦闘』」（2018年7月）

第9回「国際協力・海外進出の現状と今後」（2018年12月）